

## 【2】 研究の経過

### 〔1〕 平成7年度（1年次）の取り組み

『生活を楽しむ子』をめざして、という研究テーマに新たに着手することになり、高等部でも、研究の方向を模索していった。

#### (1) 取り組みの構想の立案

高等部の生徒にとって「生活を楽しむ」とはどういうことか、「生活を楽しむ」ためにどんな力をつけることが必要なのか、などについて話し合いを重ねていった。この経過については、114頁から詳しく述べている。

#### (2) 実態把握の方法の検討と実施

生徒の実態把握の方法として、毎年行っているWISC-R知能検査、S-M社会生活能力検査の他に、田中ビネー知能検査も取り入れて実施した。また、生徒一人ひとりが自分づくりのどの段階にあるかを検討し、段階に応じた生活を楽しむ具体的な姿を確認し合った。さらに、生徒に対しては、「自分の生活の中で何を楽しいと感じているのか」について個別に聞き取り調査をし、傾向をまとめていった。

#### (3) 一人ひとりのめざす「生活を楽しむ」像を設定

高等部の研究テーマを生徒一人ひとりにおろして考え、一人ひとりのめざす「生活を楽しむ」像を設定した。

### 〔2〕 本年度（2年次）の取り組み

本年度は、昨年度の経過を踏まえて、次のような取り組みを行った。

#### (1) 実態把握の継続

昨年度と同じ検査により、発達年齢・社会生活年齢等を把握した。また、生徒達の自分づくりの段階を確認し、それぞれの段階に応じた支援の仕方を工夫することとした。さらに、昨年度在校生に実施した「生活を楽しむ」に関する意識調査を、今年度は卒業生にも行い、卒業後の実態についてもより詳しく把握しようとした。

#### (2) 一人ひとりのめざす「生活を楽しむ」像を設定

昨年度に続き、一人ひとりの「生活を楽しむ」像を設定し、この像をめざして実践に取り組んだ。

#### (3) 授業づくり

研究教科・領域を「生活一般」、「職業科」、「選択学習」、「特別活動（学部集会・ホームルーム活動）」と決定し、題材の選定や支援の工夫について話し合いを重ねながら授業づくりに取り組んだ。

#### (4) 個人事例の追求

個人事例の対象生徒を決定して、「生活を楽しむ」をめざす個に応じた支援の工夫や生徒の変容について追求していこうとした。この対象生徒は、自我の誕生・拡大の段階、自制心の形成の段階、自己客観視の段階の生徒それぞれ1名ずつを選び、自分づくりの段階に応じた支援の工夫についても検討していくこととした。

(河田)